漫画家×妖怪DJ×印刷人 トークセッション 交えたワークショップ

『真の消費者ニーズをつかめ！』コト売り体験会

本紙はこのほど、ラベル業界人を対象に「真の消費者ニーズをつかむ！コト売りモデルケース体験会」と題したイベントを開催。自作シールの愛好家を講師に招き、消費者が感じているシール・ラベルの魅力、ラベル業界に望むことなどを深耕した。同様のイベントを7月に開催される「ラベルフォーラムジャパン2019」（ラベル新聞社主催）でもワークショップとして実施予定。イベントの模様をリポートするとともに、初開催となるワークショップ企画について紹介する。

（大野・柏木）

本紙は3月25日、東京都台東区のTKP上野駅前ビジネスセンターで「真の消費者ニーズをつかむ！コト売りモデルケース体験会」と題したイベントを開催。ラベル業界人ら10人を招いて実施した同イベントでは、自作シール愛好家で漫画家のむっく氏と〝妖怪DJ〟の高☆梵氏を講師に招いた。

冒頭、むっく氏は「ハンドメードでいろいろなものを作るのが好きで、ミニチュアやゲームソフトの自作を行っています。自作シールを始めたきっかけは、食玩のおまけシールです。自分でも作ってみようとしたところ、オフセットやスクリーンなどさまざまな印刷方式を知っておもしろいと思い、シールというより印刷技術にひかれて勉強を始め、自作シールの製作と販売を行うなど今に至ります」と自己紹介。同氏がシール作りのノウハウを記した冊子『自作シールのススメ』も披露した。

むっく氏　漫画家

高☆梵氏は「高円寺で〝大怪店〟という妖怪専門店を開いています。いろいろなクリエーターが作る妖怪をモチーフにしたアート作品をはじめ、雑貨やアパレルのハンドメードグッズを扱うレンタルボックスと、妖怪をモチーフにしたギャラリーの二本立てのショップです」と話し、シールに携わるきっかけについては「もともとはバンドマンで、10年ほど前に妖怪を音と絵で表現する『音ノ怪 絵ノ怪』というイベントを始めました。僕らが曲を演奏して、作家の方がライブペイントを行い、物販で妖怪に関するグッズを販売したことがはじまり。そこから、妖怪の魅力を知らせるために、さまざまなカルチャーと組み合わせるようになり、妖怪と食のコラボレーション『妖怪食堂』、妖怪の作品を集めた『大怪展』などを手がけていきました。その一環で『僕らの妖怪シール展』と題して、食玩のおまけシールのフォーマットで、作家の方々が妖怪をモチーフとしたシールをデザインして販売するという企画を始めるようになりました」と振り返る。

市販の資機材で〝プロ並み〟品質に

続いて、自作シールの醍醐味を体感するため、参加者はハンドメードのシール作りを実践した。今回題材となったのは、ラミネート、粘着紙、剥離紙からなる「3層式シール」と、間にホログラムシートを加えた「4層式シール」。印刷済みの48ミリ角のシールにラミネートフィルムを貼り合わせるため、トンボに合わせてカット後、スキージを使ってエア抜きするなどの作業を行った。

印刷は市販の家庭用インクジェット（IJ）プリンタで行われており、むっく氏はIJの利点について「極小ロットの対応ができる」「発色もよく、有版と異なり網点が目立たない」と説明。参加したラベル業界人はモックアップなどを手作業で製作することはあり、親しみながらも「店頭で並ぶ商品としてのシールをハンドメードで仕上げるのは新鮮」「印刷機同様、見当精度が意外にシビア」と評し、作業を進めた。

シール製作と並行しながら、むっく氏は自作シールを収めたアルバムをめくりながら、ハンドメードの神髄を解説。「段ボールを原料に手すきした紙への印刷」「熱転写プリンタを駆使して自引きするほか、スクリーン印刷用の版を自作」「蛍光塗料を調合したインキでスクリーン印刷」「金・銀・パール印刷も可能」など、高品質な作品の数々を披露した。また、名刺交換で名刺シールを取り出し、表面にはむっく氏本人をデフォルメしたイラスト、裏面の剥離紙にプロフィールを印刷した逸品を紹介した。

参加者からは「ロット数こそ少ないものの、仕上がり品質はプロ並み」「ホログラムをはじめ、エンボス表現、多層シールなど、使っている技術は実に多彩」と感嘆の声が上がった。

トークセッション

続いて、講師と参加者が意見を交わすトークセッションへ移行。極小ロットのシール・ラベルの需要はどこにあるのかといった参加者からの質問に対し、むっく氏は「デザイン事務所など社員の名刺シールを欲しがる企業はあり、10人前後の規模であっても、一定の需要が見込めるのでは」と私見を述べた。また、年に数回行われる自作シールのイベントでは50ほどのサークルが集まり、盛況であると紹介した。こうしたイベントの中で、むっく氏らは来場者へ向けて自作シールのワークショップイベントを開催しており「体験者が自分でシールを作り始めることも」と活動の広まりについて話した。

「デジタル印刷機によって極小ロットに対応できる土壌はラベル業界でも整っているものの、印刷会社はデザイナー不足」（参加者）との意見も出ると、これに対し高☆梵氏が「ショップやイベントを通じて知り合った、多くのデザイナーを紹介できます」とコメントした。

デザイナーとのコラボレーションの実例として「取り壊しが決まった後の建物を解放し、デザイナーと印刷会社がコラボレーションした作品展を行い、反響を集めました」と『ものづくり×デザイナー』の相乗効果を強調。イベントに関連した案内冊子などの印刷にとどまらず、さらなる展開も可能ではと、高☆梵氏から「印刷会社からはユニークな印刷資機材や独自の印刷技術を提供してもらい、デザイナーによるアイデアを通じてプロダクトにできるのでは」との意見も飛び出した。

むっく氏は「ある印刷会社がデザイン性の高い箔のサンプル帳を数千円で発売すると、デザイナー界わいでの反響は大きいものでした」とし、サンプル帳の製作も有益だと反応。こうしたデザイナーとの交流について、参加者は『印刷を知らないデザイナー』『デザインを知らない印刷会社』では、互いに理解が及ばないため、スピード感やコスト面でディスコミュニケーションが起こりがち。互いを知ることで、より協業できる余地が広がるのでは」と期待を込めて展望を語った。

「自作シールとは何か」を実感するためにカッターやスキージを使ってシールづくりを実践した

食玩のおまけシールについても、むっく氏は「発売当時の最先端の印刷技術が詰まっており、サンプルとしても秀逸なもの」との見方を示し、後発の類似商品にも触れ「独特な印刷技術によって多くのユニークなシールが台頭しています」と話した。また、漫画家という立場から「電子媒体の台頭によって、コミックなど紙媒体の衰退は肌で感じています。やはり紙ならではの価値が求められるようです」とし、活版印刷やデザイナー向けの意匠性が高い書籍を例に出し、特殊印刷・加工次第で紙媒体は注目され、まだまだ売れる余地があるとした。

高☆梵氏　妖怪DJ

紙ならではの価値創出 デザイナーと協業の道

DIY市場の伸長

シールに限らず、DIYの市場は隆盛しているとして、むっく氏は「ECサイトを通じて、多くのDIY素材が手に入ります。最近では家庭用ゲームソフトの中身の基盤やデータも自作できる環境が整い、昔は考えられなかったようなものまで自作できます」とコメント。そこに合わせた小ロットの展開には将来性があるのではと、印刷業界に一石を投じた。具体例として「香料インキなどの資材」「白やクリアインクが打てるIJP」などの一般向け販売を希望しているとリクエストを挙げた。

参加者からは「普段刷っているシールやラベルが、どこで使われているのか把握していないことは多い。われわれも『使い方』に着目して物ごとを考えなければならない」と、市場性を探り、製品開発などに生かすことが重要との声が聞かれた。

高☆梵氏は、個人、または事業規模が小さくてもSNSによって宣伝できる土壌は整っているとして「FacebookやTwitterなどのSNSで特定層に響くような情報発信が可能。コンスタントに情報を発信することで、ファンを作れます」とした。参加者は「BtoBの仕事をメーンに行う印刷会社は、存在を知られていないケースが圧倒的に多い。『この企業は何をしている会社なのだろう』との答えを消費者が知れば、思いがけないビジネスチャンスがあるはず」と反応した。

総評

印刷に関する知識を持ちながらも、消費者側の目線に立った要望・意見を述べる講師2名とのトークセッションを通じて、参加者からは「印刷サンプルをデザイナーに見てもらい、コラボレーションして商品開発を行いたい」「自社の製品・技術がどのような市場に響くか試したい」「消費者の肌感覚に触れることで、新市場が開拓できるのでは」「顧客に提案営業を行うにあたって、消費者による ものの見方を取り入れるのは有用」などの感想が得られた。自作シールというアプリケーションを通じて、印刷会社とデザイナーが協業する可能性を示し、ワークショップは閉幕した。

印刷に精通しながらも消費者目線を持つ講師2名と意見を交わした

名刺シール（右上）などむっく氏は多彩な作品（左上）を自作。高☆梵氏は店舗でシールを販売（左下）するほか、イベント「僕らの妖怪シール展」も主催

開催概要

名称	ワークショップ「真の消費者ニーズをつかむ！コト売りモデルケース体験会」
会期	2019年7月9日㈫午後1時～午後3時 ※ラベルフォーラムジャパンの展示会は7月9日㈫10日㈬午前10時～午後6時（予定）
会場	東京ドームシティ　プリズムホール　展示会内の特設コーナー「ラベルパビリオン」にて 東京都文京区後楽1-3-61 ■ JR「水道橋駅」東口　徒歩5分　■ 都営地下鉄三田線「水道橋駅」A3出口　徒歩5分 ■ 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」2番出口　徒歩10分 ■ 都営地下鉄大江戸線「春日駅」A1出口　徒歩10分
主催	ラベル新聞社
内容	「講師自己紹介（自作シール体験会含む）」「トークセッション」
参加対象者	ラベル印刷会社、印刷関連企業、ブランドオーナー、ラベルユーザー、ラベル関連資機材メーカー、パッケージ関連会社、デザイナー、ラベル＆パッケージ商社、広告代理店など

※2019年4月15日現在。内容は変更される場合があります

求む！消費者との交流望む印刷人

ワークショップ参加者募集

7月開催の「ラベルフォーラムジャパン2019」（ラベル新聞社主催）においても、今回実施した、印刷会社に消費者目線の発想をもたらすワークショップ「真の消費者ニーズをつかむ！コト売りモデルケース体験会」を開催する。漫画家のむっく氏と〝妖怪DJ〟の高☆梵氏を講師に招き「講師自己紹介（自作シール体験会含む）」と「トークセッション」を行う。

むっく氏は4ミリ角で食玩のおまけ風シールを自作している漫画家。妖怪DJの高☆梵氏は店舗で、デザイナーや作家が手がけるシールをはじめ、妖怪グッズの販売やイベントを企画している。

参加対象は、コンバーターやサプライヤーなどラベル印刷関連の業界人。参加者は講師の自己紹介を受け自作シールづくりを体験した後、トークセッションで「自社の製品・技術をもとにした商品開発の可能性」「極小ロットや自作シールの市場性」「デザイナーとの協業の具体例」などについて、講師と意見を交わせる。

「自社商品を開発したいが市場ニーズが分からない」「ユニークな製品・技術を開発したが売り込み先がない」「シール愛好家は『何に』『いくら』払っているのか知りたい」といった悩みに応える内容となっている。

開催は7月9日㈫午後1時から午後3時までの2時間、ラベルフォーラムジャパン展示会内の特設コーナー「ラベルパビリオン」で行う。参加費は無料だが席数に限りがあるため、申し込みはお早めに。受け付けは左のQRコード、あるいはイベントホームページ（http://www.labelforum.jp/workshop.html）から。

申し込みQRコード